

空母の作戦司令室

— 葬儀業界インフラ変革マンガ(全10話) —

現場は変えるな。
変えるべきは、裏側だ。

なぜ、現場は非効率に見えるのか？

- ✓ 会議はムダに見える
 - ✓ アナログは遅れて見える
 - ✓ 人に依存しているように見える
- しかし——

それは“守るための構造”だった。

朝比奈 (あさひな)

新人葬儀ディレクター
20代後半、IT業界からの転職者

黒沢 (くろさわ)

ベテラン式典部長
ブレイクマネージャー、50代

通し軸

朝比奈の「なぜこんな非効率なことを？」という疑問が全話を貫く問いとなり、最終話でその答え(=黒沢たちの半世紀の知恵は正しかった。変えるべきはやり方ではなく、裏側の仕組みだった)に到達します。

10の現場から見た真実

- | | | |
|----|--|--|
| 1 | | 読まれない資料
キーワード: 会議=説明会 感情: 疑問
→ 現場には「読む余白」がない |
| 2 | | 壁のホワイトボード
キーワード: 環境的学習 感情: 驚き
→ アナログは“学習装置” |
| 3 | | ダブルブッキング未遂
キーワード: 一発勝負 感情: 恐怖
→ システムは現場の真実を知らない |
| 4 | | システムの傲慢
キーワード: 空母の司令室 感情: 反発→納得
→ システムは決めるな、見せろ |
| 5 | | 録音してAIに投げただけなのに
キーワード: ゼロスタート商 感情: 徒労感
→ 文脈が消えれば、すべてやり直し |
| 6 | | 野良AIの夜
キーワード: 野良AI流出 感情: 戦慄
→ 便利さ=リスク |
| 7 | | 辞めます
キーワード: 離職リスク 感情: 無力感
→ 教育で人は壊れる |
| 8 | | ボタン一つでいい
キーワード: ノンレクチャー 感情: 希望
→ 現場は変えず、裏側だけ変える |
| 9 | | 賠償の悪夢、見せなかった未来
キーワード: 回避された悪夢 感情: 安堵
→ 可視化すれば、事故は防げる |
| 10 | | 壁のボードは、消えなかった
キーワード: 組織記憶の継承 感情: 感動
→ 守るために、仕組みを変える |

結論

システムの役割は「決定」ではない
「人が判断できる状態を
つくること」

これからの葬儀業界



人は現場で育つ



知恵は環境に
蓄積される



システムはそれを
“支える”

半世紀受け継がれた知恵と、
最新のAIインフラが共存する未来へ。



変わらない価値を、未来へつなぐ。

最後の問い

あなたの会社には、
受け継がれる“知恵のボード”がありますか？

そして——

それを未来に残す仕組みは、ありますか？

Produced by:

有限会社ワイ・イー・ワイ

<https://yey.co.jp>



お問い合わせは
LINEまたは
ホームページから



学びは、現場で続いていく。壁のボードは、今日もそこにある。

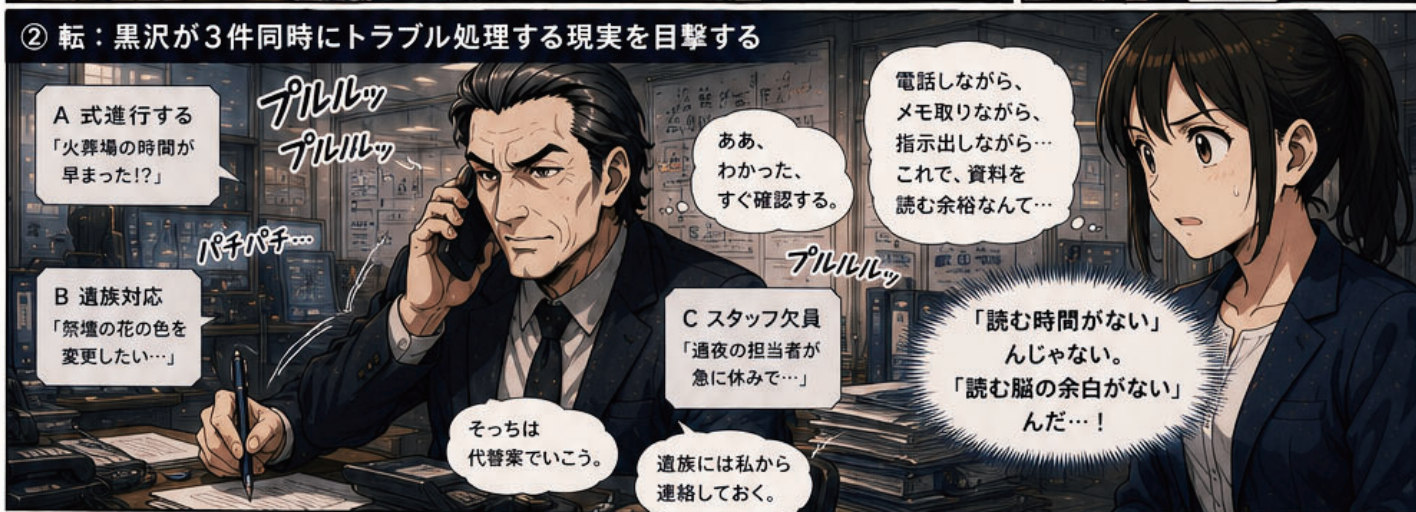
第1話 「読まれない資料」

元ネタ：第1～2章（会議文化とプレイングマネージャーの構造、官公庁風パワボ）

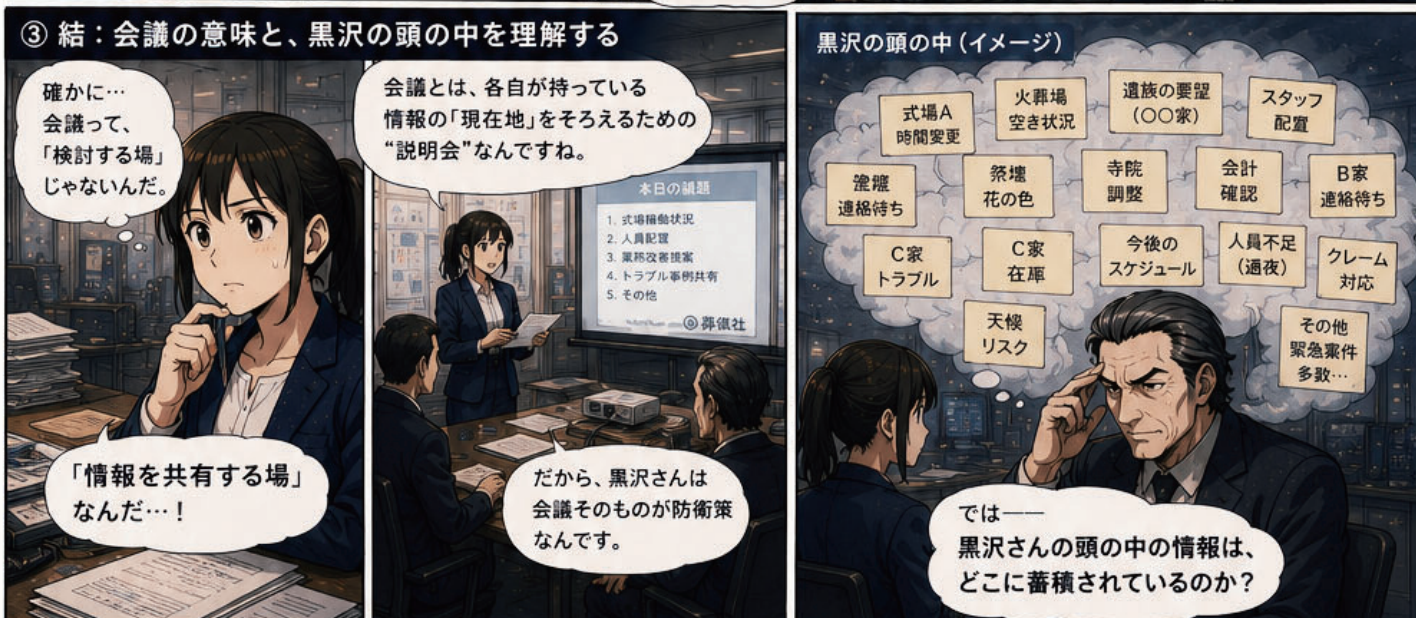
① 事件：完璧な資料を、誰も読まずに会議へ



② 転：黒沢が3件同時にトラブル処理する現実を目撃する



③ 結：会議の意味と、黒沢の頭の中を理解する



次回予告

第2話「壁のホワイトボード」

半世紀受け継がれてきた
現場の“学習装置”とは——？



元ネタ：第6章（実家から受け継がれる管理システム、環境的学習）

黒沢さん、そろそろ
この配置図も
デジタル化しませんか？
クラウドで共有すれば
もっと効率的になります！

朝比奈

はは…
これをな、今さら
画面の中に閉じ込める
ことはできんよ。

黒沢

……！
これが、
半世紀使い続けている
配置ボード……？

とりあえず、
電話番をしながら
様子を見てみよう...

あ…式場Aの翌日の
枠が一つ空いたから、
B家の希望をこっちに
回したんだ。

さっきの電話の
“祖母の体調”って
このことだったのか...!

磁石が動くたびに、
会社全体が動いてる...

このボードは、
現場の“今”を映す
生き物みたいだ。

電話が入り、

マーカーが走り、

磁石が動く。

私は、ただ眺めているだけなのに、
 どんどん全体が頭の中につながっていく…。
 これが“現場感覚”なんだ——

黒沢さん…
わかりました。
これは非効率な
アナログじゃありません。

赤ちゃんが言葉を覚えるように、
“眺めているだけで現場を学べる”
学習装置なんですね。

朝比奈

そうだ。
このボードで育った者が
この仕事を回してきた。

百のマニュアルより、
この一枚の方が、
人を育てるんだ。

(では——
黒沢さんの頭の中の情報は、
どこに蓄積されているのか?)

異沢

次回予告

第3話「ダブルブッキング未遂」

——システムに見えない“裏の事情”が、現場を救う。

第3話 「ダブルブッキング未遂」

元ネタ：第4章（葬儀社における一発勝負の世界、損害賠償リスク）

① 事件：善意で入力したアサインが、現場の急な変更と食い違い、ダブルブッキング寸前に

A 式場、
15時から空いてる。
システム上も
問題なし。
よし、これで
完了!

式場アサイン管理システム

13:00	式場A
14:00	
15:00	
16:00	○予約可能

確定

しかし、その直後――

急なんですが…
家族の希望で、
式場Aの
15時に変更を
お願いします…

えっ!?
15時は…
もう別の方を
入れてしまっ
ました…!

ダブルブッキングまであとわずか――

00:07:32

式場A 15:00～

先に入れた案件 故人：鈴木様 施主：鈴木家	VS	変更希望の案件 故人：田中様 施主：田中家
-----------------------------	----	-----------------------------

このままだと、両家が同時刻に到着してしまう!

朝比奈、焦りと混乱…

私が悪いの？
システムは
正しかったのに…
どうすれば…!?

カチ
カチ
カチ

② 転：黒沢が電話一本と経験の勘で、裏の事情を瞬時に把握し、大惨事を回避

黒沢、
A 式場の
15時の件だ!

わかった。
任せろ。

式場へ確認

A 式場さん、15時、
実は仮押さえ
してませんか?

火葬場へ連絡

火葬場の枠、
田中家で
前倒しできるか?

運転手へ指示

田中家は14時着で
動いてくれ。
間に合うはずだ。

よし、これで
両家とも
スムーズに
流れる。

式場A 15:00 状況

鈴木家 (先約) 15:00 実施 ✓ OK	田中家 (変更希望) 14:00 到着に変更 ✓ OK
------------------------------	-----------------------------------

ダブルブッキング回避!

③ 結：システムの「正しさ」を信じることの危うさを、身をもって知る

システム上は
間違いなく
正しかったはず…

なのに、
現場はそれでは
回らない…?

もし、このままダブルブッキングが起きていたら――

想定される損害賠償リスク

精神的苦痛に対する慰謝料 1家族あたり	500万円～1,000万円
葬儀のやり直し費用・追加費用 1家族あたり	300万円～500万円
その他(営業損害・弁護士費用など)	1,000万円～1,500万円

合計：2,000万円～4,000万円超

※ケースによりさらに増大する可能性あり

システムに
正しさを求める
こと自体が、
そもそも
間違っていたのか…?

現場には、
システムが
知らない「事情」が
必ずあるんだよ。

次回予告

第4話

「システムの傲慢」

本社IT部門が
「自動アサイン機能」を導入しようとして、
現場が猛反発…!
システムは「決定する道具」なのか?
それとも「見る道具」なのか?

自動アサイン機能(案)

- ・最適化アルゴリズムによる自動割当
- ・人の判断を排除し、効率最大化
- ・属人化の解消



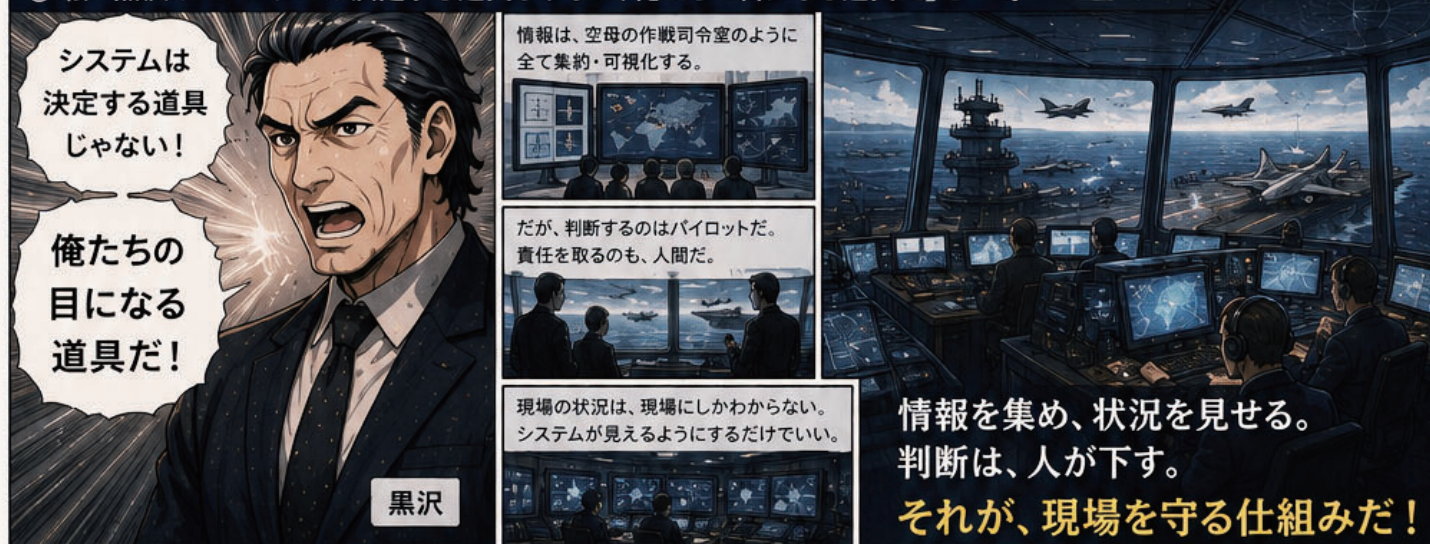
第4話「システムの傲慢」

元ネタ：第5章（システムに最終決定を委ねることの危険性、空母の作戦司令本部）

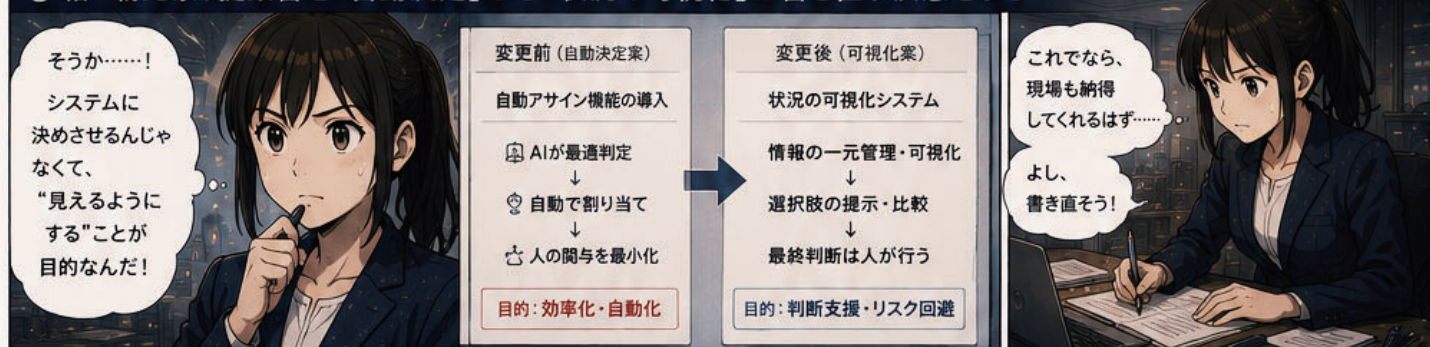
① 事件：本社IT部門が「自動アサイン機能」を導入しようとし、現場が猛反発。朝比奈は板挟みになる



② 転：黒沢が「システムは決定する道具じゃない、俺たちの目になる道具だ」と一喝



③ 結：朝比奈、提案書を「自動決定」から「状況の可視化」に書き直す決意をする



次回予告

第5話

「録音してAIに
投げただけなのに」

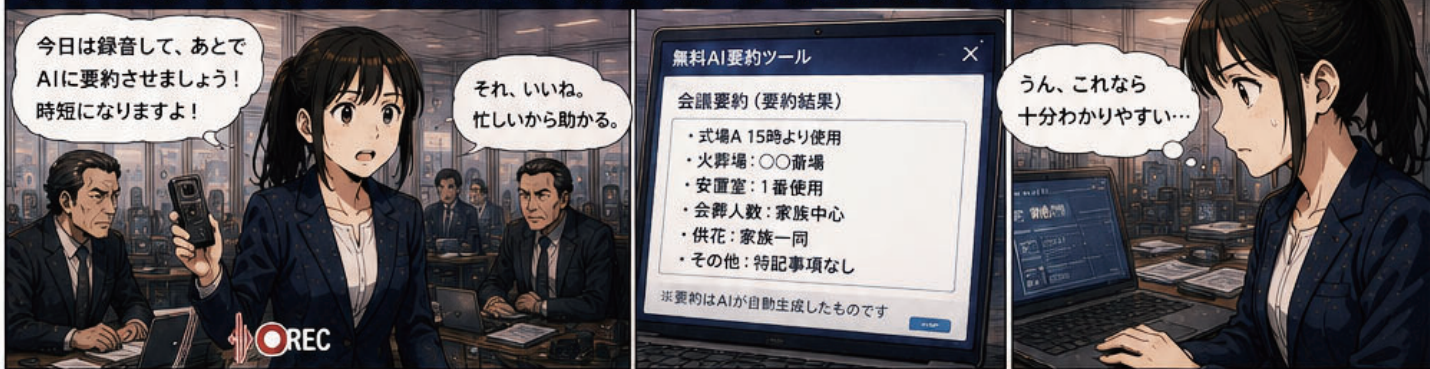
会議を録音して、AIで要約すれば
時短になる——
そう思っていた現場に、
予想外の落とし穴が待っていた……



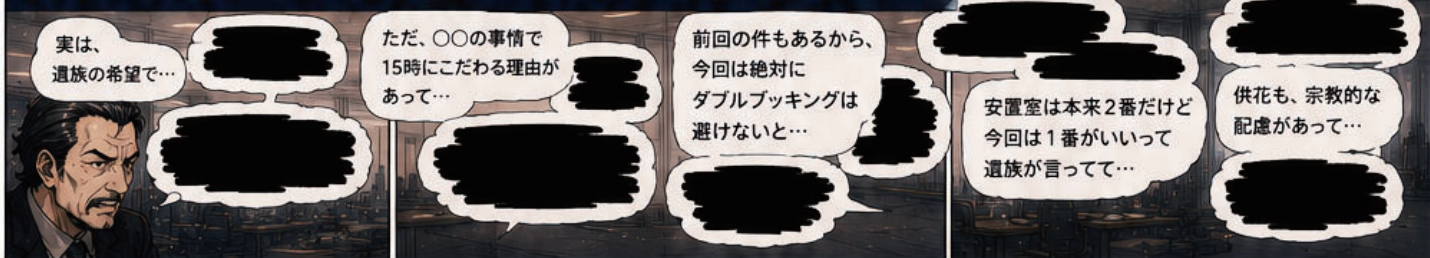
第5話「録音してAIに投げただけなのに」

元ネタ：第3章・第8章（AI要約の文脈欠落、ゼロスタート病）

① 事件：時短のために会議を録音し、無料AIで要約。しかし肝心な判断根拠が抜け落ちていた



しかし、本当に重要だった“判断の理由”や“背景”は、すべて抜け落ちていた――



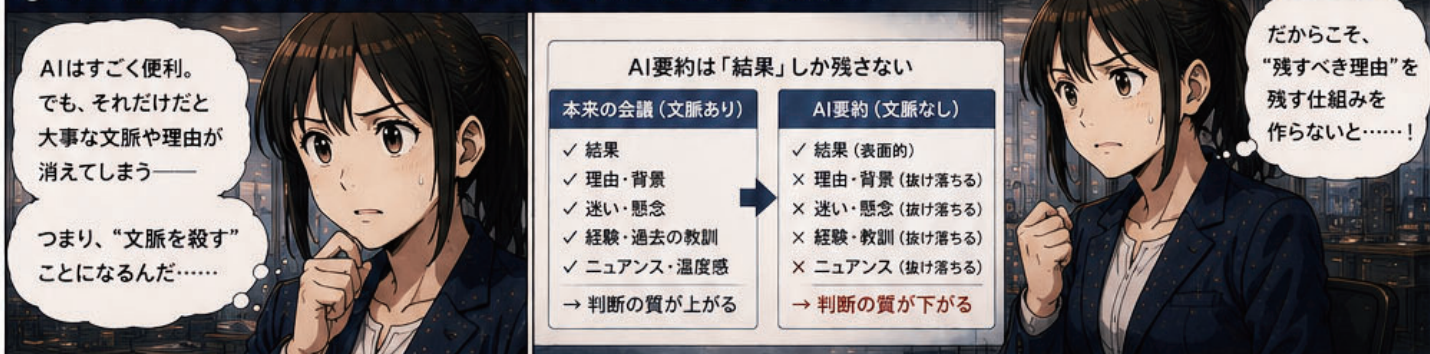
② 転：次の打ち合わせで、なぜその決定に至ったかを誰も説明できず、ゼロからやり直しに…



結果…



③ 結：朝比奈、「AIは便利だが、それだけでは“文脈”を殺す」と痛感する



次回予告

第6話
「野良AIの夜」

便利さの裏に潜む、
もう一つのリスク――
あなたの入力した情報は、
どこへ行くのか……？



第6話「野良AIの夜」

元ネタ：第7章（野良AI、中国サーバー流出リスク）

① 事件：残業中の若手社員が、個人のスマホアプリでご遺族情報を無自覚に入力してしまう

AIに要約してもらえば、報告書もすぐ終わるな！
無料だし便利だし……

23:45
式場B
担当：山田（入社2年目）

AIチャット（無料版）

ご遺族の情報を整理して、報告書の下書きを作ってください。

■ 故人情報
・氏名：鈴木 一郎 様
・年齢：82歳
・死因：心不全
・喪主：長男 鈴木 健一 様
・家族構成：妻、長男、長女

■ 希望事項
・家族葬希望
・戒名：〇〇院〇〇〇〇居士

送信

わー、すごい！
あっという間にまとめてくれた！

これで明日の朝、楽になる……

AIチャット（無料版）

要約が完了しました

■ 故人：鈴木 一郎 様（82歳）
■ 死因：心不全
■ 喪主：鈴木 健一 様
■ 家族構成：妻・長男・長女
■ 希望：家族葬／戒名希望

報告書（下書き）を出力しますか？

いいえ はい

② 転：朝比奈がプライバシーポリシーを読み、海外サーバーへ送信され学習データ化されている事実に着目する

翌朝、朝比奈はこのアプリのプライバシーポリシーを確認する。

……あれ？
このアプリ、どこの会社？

プライバシーポリシー

第6条 データの取り扱い
ユーザーが入力した情報（テキスト、音声、画像等を含む）は、当社のサービス向上および顧客学習のために使用されます。
データは暗号化のうえ、当社の海外サーバー（中国・米国等）に送信・保存されます。

第7条 第三者提供
当社は、個人を特定しない形式で提供先にデータを提供する場合があります。

海外サーバーへ送信……？
しかも学習データとして使われる……！？

中国サーバー群

米国サーバー群

鈴木 一郎 / 82歳 / 心不全
家族構成：妻・長男・長女
喪主：鈴木 健一
希望：家族葬 / 戒名希望

知らないうちに、
ご遺族の情報が、
海の向こうで“教材”
になっているなんて……！！

しかも、名前も顔も知らない誰かが、そのデータを見て、学習している……
このままでいいの……？

知らなかったっす……
無料だし、みんな使ってると思って……

便利だからって、何でも入力していいわけじゃねえ。
だが、現場は忙しいんだ……

教育しても防げない。
現場は、今日も明日も、
休む間もなく回っている。

③ 結：新しいルールを課すだけでは、現場は守れない—— 朝比奈がその限界を悟る

セキュリティ教育をすれば済む話ではない。
人は疲れている。
プレッシャーの中で、
「知らずに使ってしまう」
環境そのものが問題なんだ……

大切な情報を守るには、
「現場に新しいルールを
押し付ける」のではなく、
「使わせない仕組み」を
作らなければならない。

それが、インフラの仕事だ。

まずは、誰もが
安全に使える
“正しい道具”を
用意しないと……

次回予告

第7話
「辞めます」

セキュリティ研修を時間外に義務付けた結果、
若手社員の一人が退職を申し出る。
引き止めても、届かない想い——
朝比奈はまた、現場の現実突きつけられる。

「これ以上、何かを
“覚えろ”と言われたら、
もう限界です」

第7話「辞めます」

元ネタ：第7章後半（時間外教育の強制と離職リスク）

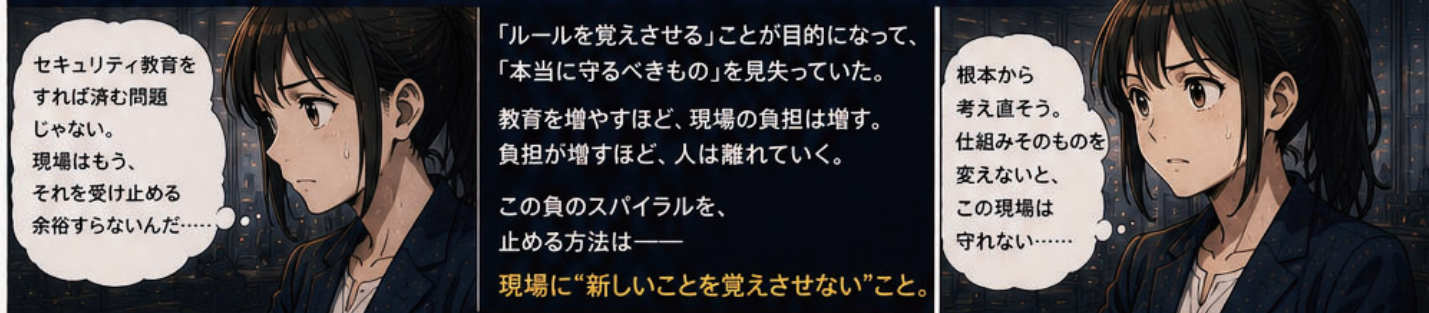
① 事件：セキュリティ研修を時間外に義務付けた結果、若手社員が退職を申し出る



② 転：黒沢と朝比奈が引き止めに向かうが、若手の本音を突きつけられる



③ 結：朝比奈、「教育で解決しようとする自体が現場を追い詰めていた」と気づく



次回予告

第8話

「ボタン一つでいい」

現場に新しい操作を覚えさせない。
“ボタン一つ”で安全と効率を両立する
新しい仕組みを考えよう——



現場の負担を
増やさずに、
守れる仕組みは
作れるはずだ。

第8話「ボタン一つでいい」

元ネタ：第8章（ノンレクチャー・インフラの提案）

① 事件：朝比奈が「新しい操作を一切覚えさせない」設計案を提出

現場には、新しい操作を一切覚えさせません。今まで通り、「完了ボタンを押すだけ」です。

新システム設計コンセプト
“ボタン一つで完了”

現場の操作は、これまでと変えない。

業務完了

完了

今まで通り、このボタンを押すだけ。

裏側で、すべてを安全に処理・記録・分析

なるほど…。理想はわかるが、それで本当に現場がラクになるのか？

新しい機能を使わなければ、結局、効果は薄いのでは？

半信半疑といったところだな。

② 転：裏側で国内ホストの複数AIが安全に文脈を構造化している仕組みを、黒沢たちにデモで見せる

デモ開始：現場の操作は変わらない

……本当にこれだけでいいのか？

裏側のインフラ：国内ホスト × 複数AIエンジン

安全な国内ホスト環境（閉域網）	複数のAIエンジン（国内ホスト）	出力・活用
業務データ（式場・火葬場・スタッフ・遺族情報など）	文脈構造化エンジン（コンテキスト・オーケストレーター） ・文脈の整理・構造化 ・重要判断の根拠を保持 ・リスク検知・整合性チェック ・将来の参照に耐える記録化	AI0 要約・議事録生成（国内LLM） → ダッシュボード（状況の可視化）
会話・記録・判断ログ（文脈データ）		AI2 リスク検知・予測（国内LLM） → アラート通知（重要事項）
各種外部連携（火葬場システム・寺院・霊柩など）		AI3 ナレッジ検索・照合（国内RAG） → 記録・保管（監査対応）
	AI4 レコメンド生成（国内ルール+AI） → 将来の参照・学習（知恵として蓄積）	

すべて国内完結。データは外に出ない。学習データとしても外部提供しない。

現場は何も変えていないのに、こんなに多くのことが裏側で処理されているのか……！

はい。現場の負担はゼロのまま、安全性と品質だけを底上げします。

③ 結：黒沢、「これなら現場は何も覚えなくていい」と初めて笑顔を見せる

これまで散々、新しいシステムは失敗してきた。

だが、これは現場に何も求めていない……

これなら、現場は何も覚えなくていい。

やっと、現場のことを本当に考えてくれたシステムかもしれないな。

現場は、変えなくていい。変えるべきは、インフラだけ。

それが、現場を守る一番の方法だ。

次回予告

第9話

「賠償の悪夢、見せなかった未来」

もし、あのダブルブッキングが起きていたら――
数千万円の賠償、信用の失墜、遺族の怒り、
会社の存続すら揺るがす危機。
新しいインフラが、見えない“悪夢”を
未然に防いだ未来を、黒沢は初めて目にする。

ダブルブッキング回避シミュレーション

⚠ 回避成功

潜在リスク：賠償額 約38,000,000円
信用損失：深刻
遺族満足度：大幅低下の可能性

未来は、変えられる。

第9話「賠償の悪夢、見せなかった未来」

元ネタ：第4章・第9章（損害賠償リスクの回避、可視化インフラ）

① 事件（思い出）：第3話のダブルブッキング未遂が、再び起きそうになる——

【思い出：第3話】

【今回：新システム導入後の“if”】

えっ……また
同じパターン!?
今回は……間に
合わないかも……!

式場A
10:00~12:00
〇〇家 通夜

式場A
10:00~12:00
△△家 告別式

ダブルブッキング
寸前!

スケジュール監視アラート

競合アラート：式場A
10:00~12:00に重複の可能性
詳細を確認

式場A 10:00~12:00
〇〇家 通夜 (確定)

式場A 10:00~12:00
△△家 告別式 (調整依頼中)

移動時間 35分
移動時間 40分

リスクレベル
高

② 転：黒沢が事前に矛盾に気づき、すぐに手を打つ—— システムは“知らせる”だけ、決めるのは人間だ

もしもし、
お寺の山本さんか。
時間を10時から
13時にずらして
いただけませんか?

はい、
わかりました。
それなら
大丈夫です。

ありがとうございます。
こちらも別のご家族へ
丁寧に説明します。

△△家のご家族、
ご理解いただけました。
式場Bに変更で
調整完了です。

一元化された状況ダッシュボード（全体ビュー）

本日の式場スケジュール（全体）

	式場A	式場B	式場C
9:00			
10:00	〇〇家 通夜 (確定)		
11:00		〇〇家 告別式 (確定)	
12:00	△△家 告別式 (調整中→調整済)		
13:00			

移動・距離マップ

関係者・連絡状況

- お寺（山本） 調整済
- 火葬場 空きあり
- △△家 合意済
- ドライバー 確保済

想定リスク回避額
約 38,000,000 円

③ 結：数千万円の悪夢が起きなかった未来——「システムは決める道具じゃない、俺たちのセンサーだ」

……もし、
あの時これが
あればな……

今回、
防げたのは
システムが
教えてくれた
からだ。
決めたのは、
俺たちだ。

そうか……
システムの役割は
「決定」じゃない。
現場の目を増やす
“センサー”なんだ。

システムの本当の役割

× 決定する道具 (危険)	○ 知らせるセンサー (安全)
自動判断・自動割当 → 現場の状況を無視 → 誤りの原因になる → 責任の所在が曖昧に	状況の可視化・通知 → 気づきを早める → 判断の質を上げる → 責任は人間が持つ

「情報を集め、状況を見せる。
判断は、人がする。それが、現場を守る仕組みだ。」

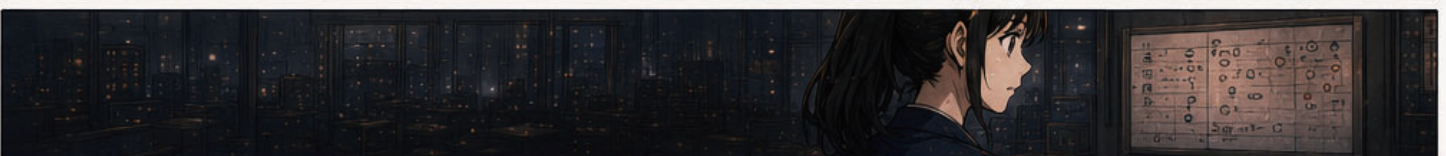
ダブルブッキング発生
式の中止・やり直し・信用失墜
損害賠償請求……
合計 約 38,000,000 円
遺族の怒り、会社の存続危機——
取り返しのつかない未来だった。

次回予告

第10話

「壁のボードは、
消えなかった」

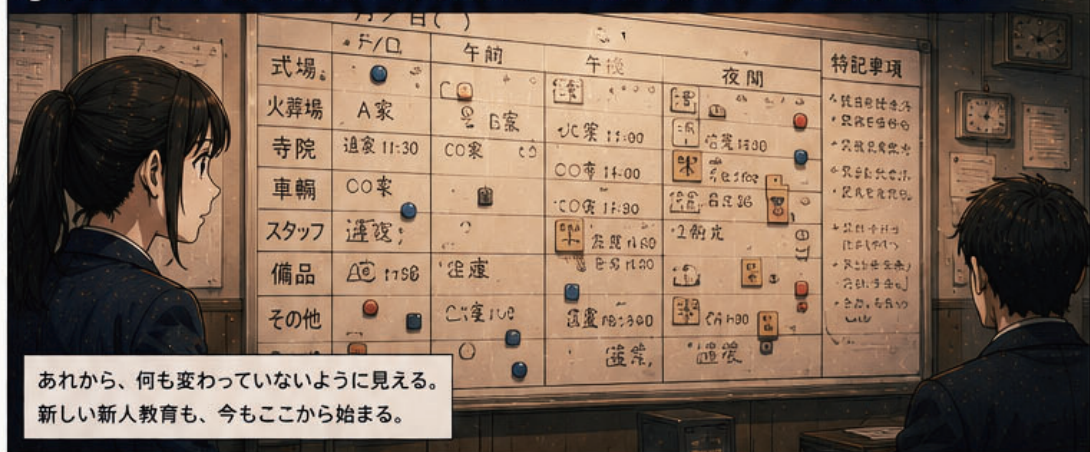
新しいシステムが導入されても、
半世紀使い続けた“壁のホワイトボード”は、
そこに残り続けていた——



第10話「壁のボードは、消えなかった」

元ネタ：第9章（総括、環境的学習の継続、組織記憶の断絶防止）

① 事件：新システム稼働後も、“あの壁のボード”は撤去されず、そのまま残っている



あれから、何も変わっていないように見える。
新しい新人教育も、今もここから始まる。



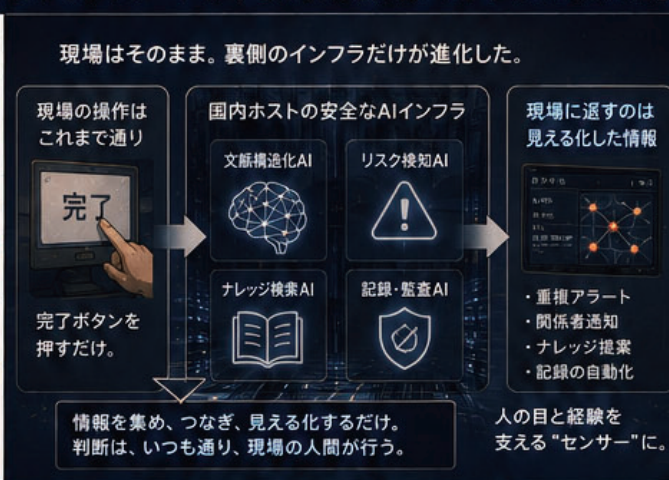
今日も新人が、
このボードを見て、
空気を読み、
人の動きを学んでいる。

② 転：朝比奈、「変えたのはボードじゃない、ボードを守るための裏側のインフラだったんだ」と黒沢に告げる



黒沢さん、
変えたのは
ボードじゃないです。

ボードを守るための、
裏側のインフラを
変えたんです。



現場はそのまま。裏側のインフラだけが進化した。

現場の操作は
これまで通り

完了ボタンを
押すだけ。

国内ホストの安全なAIインフラ

- 文脈構造化AI
- リスク検知AI
- ナレッジ検索AI
- 記録・監査AI

現場に返すのは
見える化した情報

- 重複アラート
- 関係者通知
- ナレッジ提案
- 記録の自動化

情報を集め、つなぎ、見える化するだけ。
判断は、いつも通り、現場の人間が行う。

人の目と経験を支える“センサー”に。



つまり、
俺たちの目を
増やしてくれ
たってことか…。

便利だな。

③ 結：黒沢が朝比奈に初めて「お前も、もう一人前だな」と声をかける



朝比奈……
よくここまで
考えたな。



お前も、
もう一人前だな。
俺たちの仲間だ。

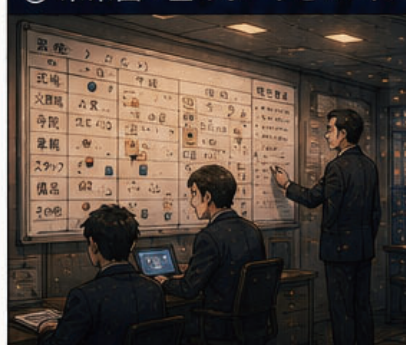
ありがとうございます…。



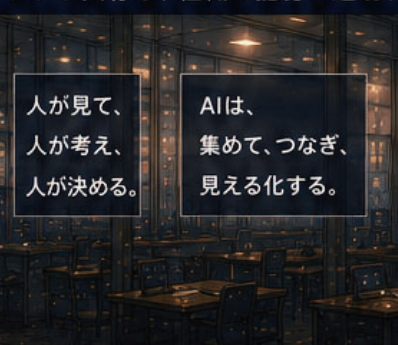
半世紀受け継がれてきた知恵と、
最新のAIインフラが、ようやくつながった。

変えなかったから、継がれた。
変えたから、守れた。

④ 未来図：壁のボードとAIインフラが共存し、組織の記憶は途切れず、未来へつながっていく



人が見て、
人が考え、
人が決める。



AIは、
集めて、つなぎ、
見える化する。



その循環が、
現場の誇りと、
誰かの安心を
つくっていく。



私たちの仕事は、
“一発勝負”の先にある
“信頼の継承”だ。

次回予告

完結

「次の世代へ」

黒沢の背中を見て学んだ朝比奈が、
次に背中を見せる番がくる。

この現場の物語は、まだ続いていく——

技術は進化しても、
大切なものは
受け継いでいく。
それが、この仕事の未来だ。

— 完 —

エピローグ「次の世代へ」

数年後—— 朝比奈は、今、黒沢と同じ場所に立っている。

① 事件：新人が、あの日の自分と同じ顔で、壁のボードを見て呟く



② 転：朝比奈は答えを“説明”しない。環境を整え、見て学ぶ時間を委ねるだけ



③ 結：数ヶ月後—— 誰に教わるでもなく、黒沢と同じ“勘”で危機を未然に防ぐ

